

モクタチバナ

[木本] 《忌避》



よく分枝し、葉も茂る。



遠くから見える程大量の花を付ける。



主脈以外の脈はよく見えない。

区別のポイント

低地の林内や林縁に生える。樹皮は灰褐色。葉は革質で、両面とも主脈以外の脈がはっきり見えない。

形態 常緑小高木。高さ2～8m。

分布 四国（南部）・九州・沖縄

名前の由来 木橘。

葉 〈全体〉倒卵形から倒披針形で長さ7～15cm、幅2.5～4cm。厚い革質。

〈付き方〉互生。

〈葉柄〉ほとんど無い。

〈基部〉やや狭いくさび形。

〈葉先〉短く鈍く尖る。

〈縁〉全縁。

備考 匂い。西部では中から好きに変化。モクタチバナもタイミンタチバナも嫌いとする文献あり。屋久島では採食。タイミンタチバナはモクタチバナより好き。

出典 3, 4, 5, 9, 14, 17, 19